

生活環境コース・学校教育実践コース（家政教育専修）
 科目区分：教職に関する科目 科目名：家庭科教育法Ⅱ
 担当教員：眞鍋郁代

平成 24 年度家庭科教育法Ⅱ(衣生活分野)

家政教育専修・眞鍋郁代

1. 授業の概観

本授業は、中学校教諭免許状（家庭科）に関する選択必修科目である。保育、食生活、衣生活の各領域に関する指導法を理解し、また、各領域に関する専門知識と今日的課題について理解することを目的とし、各領域について、教材研究・開発、授業の分析・検討を通して、実践的な力を養うことを到達目標としている。

保育、食生活、衣生活の各領域について担当者が異なるオムニバス形式をとっているが、それらのうち今回は、衣生活分野部分についての授業評価報告を行った。

対象年次は2回生以上であり、例年、小学校・中学校・高等学校家庭科の教員免許の取得を目指す学校教員養成課程の学生や生活環境コースの学生が、（今年度は法文学部院生も）履修している。

衣生活分野においては、中学校や高等学校家庭科の衣生活分野で必要とされる「衣服の材料や状態に応じた日常着の手入れができること」「布を用いた物の製作を通して生活を豊かにするための工夫ができること」の指導法の理解、また専門知識の習得によって、教材研究・開発に取り組み、実践的な力を養うことを目指した。なお、昨年度に引き続き今年度も班編成を行い、班単位による活動を取り入れた。

今年度の新しい取り組みとしては、通常の実験実習を実施するだけでなく、『中学校家庭科』を想定した、製作実習の教材開発に挑戦させたことである。短時間で学習効果の高い、さらに「確かな生活力」へとつながるような教材開発への挑戦を試みた。

2012 家庭科教育法Ⅱ（衣生活分野）

授業の内容・スケジュール

第1回	衣服の手入れに関する事項※衣服の手入れに関する実験を考える
第2回	洗濯による収縮・熱による収縮実験、吸水実験の実施
第3回	しみ抜き実習
第4回	製作実習を考える①※型紙の設定、布の選択、縫いしろ、あき口の始末について考える。
第5回	製作実習を実施する②※作品提出

2. 授業評価法 と 3. 授業評価結果について

調査項目を以下に述べる。またそれぞれの質問項目における回答人数も（ ）内に併記した。

履修登録人数は16名だが、最終的に授業アンケートに回答した学生数は12名となっている。
 A あなた自身についてお聞きします。

(1) この授業にどのくらい出席しましたか。

- ①全部（11名） ②1,2回欠席（1名）
 ③3,4回欠席（0名） ④5回以上欠席（0名）
 ⑤わからない（0名）

(2) この授業に関して授業時間外の学習時間は1回の授業ごとにどのくらいしましたか。

- ①2時間以上（0名） ②1～2時間（5名）
 ③30分～1時間（6名） ④30分未満（1名）

(3) 授業に対して意欲的に取り組みましたか。

- ①十分に取組んだ（5名） ②かなり取組んだ（4名） ③普通（3名） ④あまり取組まなかった（0名） ⑤取組まなかった（0名）

(4) この授業を履修した理由

- ①科目名（7名） ②担当教員（0名） ③シラバスの内容（3名） ④時間割の都合（1名） ⑤その他（自由記述1名）〔必要だったから（1名）〕

B 授業についてお聞きします。

(1) 先生の話し方（言葉・声の調子など）は適切でしたか。

- ①そう思う（5名） ②どちらかといえばそう思う（3名） ③どちらともいえない（3名） ④あまりそう思わない（1名） ⑤そう思わない（0名）

(2) 板書やパワーポイントの字や図の表現は適切でしたか。

- ①そう思う（7名） ②どちらかといえばそう思う（5名） ③どちらともいえない（0名） ④あまりそう思わない（0名） ⑤そう思わない（0名）

(3) 先生は学生が質問や意見を述べられるように配慮しましたか。

- ①そう思う（6名） ②どちらかといえばそう思う（4名） ③どちらともいえない（2名） ④あまりそう思わない（0名） ⑤そう思わない（0名）

(4) 配布資料、教科書などの教材は適切でしたか。

- ①そう思う（9名） ②どちらかといえばそう思う（1名） ③どちらともいえない（1名） ④あまり

- そう思わない (1名) ⑤そう思わない (0名)
- (5) 授業の内容は興味関心が持てるものでしたか。
 ①そう思う (8名) ②どちらかといえばそう思う (3名) ③どちらともいえない (1名) ④あまりそう思わない (0名) ⑤そう思わない (0名)
- (6) 授業の内容は理解できるものでしたか。
 ①そう思う (9名) ②どちらかといえばそう思う (3名) ③どちらともいえない (0名) ④あまりそう思わない (0名) ⑤そう思わない (0名)
- (7) この授業を全体的にみたときに、どの程度満足していますか
 ①満足している (4名) ②どちらかといえば満足している (8名) ③どちらともいえない (0名) ④あまり満足していない (0名) ⑤満足していない (0名)
- 【この授業を受けて①良かった点②改善した方がよいと思われる点を具体的に挙げてください】
 (自由記述)

- ①良かった点に対する回答
- 実験がたくさんできた
 - 実験が意欲的に取り組めたこと。
 - 布の性質についてよくわかった。
 - 資料がわかりやすかったです。
 - 自ら考えながら作品を仕上げていくところがよかった。
 - 布の性質について詳しく知ることができたこと。
 - 実験・実習の活動を、班で協力してできたこと。
 - 布についての学習がよりよくできた点。
- ②改善した方がよいと思われる点に対する回答
- × リバーシブルミトン (の製作) が難しかった点。
 - × もっと (実験・製作の) 教材を考える機会があればよかった。
 - × 実験の種類によっては、うまくいきにくいのがあった。
 - × 製作実習 (リバーシブルミトン) の作り方について、もっと詳細に知りたかった。(×2)
 - × 製作実習 (リバーシブルミトン) の時間がもう少し欲しかった。(×2)
 - × 特にないです。
 - × もっとスムーズにできる実験ができればいいと思う。
 - × もう少し早くできるものづくりがやればよかった。

次に、本授業と教育学部 DP との対応について考える。卒業時に身につけるべき到達目標として、DP1. (知識・理解) DP2. (思考・判断) DP3. (技

能・表現) DP4. (関心・意欲) DP5. (態度) が定められている。それぞれの評価調査結果は以下の通りである。(調査人数 12名中)

- DP1. (知識・理解)
 どちらかといえば対応していた (7名)
 対応していた (2名) 計 75%
- DP2. (思考・判断)
 どちらかといえば対応していた (7名)
 対応していた (2名) 計 75%
- DP3. (技能・表現)
 どちらかといえば対応していた (10名)
 対応していた (2名) 計 100%
- DP4. (関心・意欲)
 どちらかといえば対応していた (10名)
 対応していた (1名) 計 92%
- DP5. (態度)
 どちらかといえば対応していた (8名)
 対応していた (2名) 計 83%

4. まとめ

授業アンケートの自由記述による評価「①この授業の良かった点」については、総じて実習形式が多かったことによる「布の性質について学習がよりよくできた」点、また「布の性質がよくわかった」点を挙げるものが多かった。これは、一つに1年次対象開講科目「被服学」等で、繊維材料の種類による性質の違いを、主に座学で学んでいるが、繊維が布となったときの性能(吸水・熱による収縮など)の違いを、実際に自分の目で確かめることができる実験実習による取り組みによる、わかりやすさを挙げるものが多かった。

②改善した方がよい点の自由記述意見として目立ったのが、製作実習(リバーシブルミトン)が時間内に終わらないことから、もっと時間がほしかったという点であった。今回は、ただ製作して提出するだけではなく、中学校家庭科を想定した「布の選択、縫いしろ、あき口の始末」を各班で考え設定するという課題が加わったことで、履修者の取り組みは非常に意欲的であったがその反面、もっと納得できるまでやり切らなかったという思いが残ってしまったようであった。時間配分について改善を図りたいと考える。

最後に、本授業と教育学部 DP との対応について、DP3. ~5. については、8割以上の学生が「どちらかといえば対応している」との回答を得たが、DP1. と2. については7割前後だった。このことについても、授業で扱う内容を厳選することで、より確かな知識・理解の定着を、また、じっくり課題に取り組む余裕を持たせることで、DP1. (知識・理解) DP2. (思考・判断) の向上を図っていきたい。